

「歌」によって独立を勝ち得た合唱王国エストニアを代表する国立男声合唱団による合唱史に残る名曲「徹夜祷」、「フィンランディア」、そして注目の作曲家トルミスの世界!

バルト三国屈指の合唱大国エストニアが誇る世界最高の男声合唱団が遂に初来日! 2004年にはエストニア出身の指揮者パーヴォ・ヤルヴィとの録音が、エストニア初のグラミー賞受賞を果たし、世界各地で行われるリサイタル・ツアーも大成功を収めています。今回はエストニア政府全面協力の下、初の日本ツアーが実現し、さらにはヤルヴィ指揮NHK交響楽団とのシベリウスの大作クレルヴォ交響曲の公演も決まるなど、注目を集めています。佐久公演では、前半にラフマニノフ作曲「徹夜祷」など男声合唱史に残る大作を、後半にはエストニアが誇る今注目の作曲家トルミスの名曲によるオール・トルミス・プログラムをお届けします。

世界を席卷する、その洗練された音楽に深み加わり類を見ないハーモニー。北の大地から50人が贈る魂の雄叫び。合唱ファンでなくとも聞き逃すことはできません!

エストニア国立男声合唱団 Estonian National Male Choir

エストニア国立男声合唱団は同国合唱界の伝説的存在、指揮者で作曲家のグスタフ・エルネサクスによって1944年に設立された。初期は彼の手がけた無伴奏作品を主なレパートリーとしていたが、今では大規模な交響作品を定期的に演奏している。エストニア国営放送のために多くレコーディングを行うほか、ドイツ・グラモフォン、ソニー、フィンランディア他から多くのCDがリリースされている。2004年にはエストニア初となるグラミー賞を最高合唱演奏部門で獲得した(パーヴォ・ヤルヴィ指揮エストニア国立交響楽団、国立少女合唱団エレルヘインとのシベリウスのカンタータ)。2011-12のシーズンより首席指揮者で芸術監督のミック・ウレオヤが同合唱団を率いる。レパートリーはルネサンスから現代曲まで幅広く、エストニア作品の多くの初演を手がけた他、ショスタコーヴィッチ、オタール・タクタシヴィリ、ジョバンニ・ボナートなど世界的作曲家の作品の初演も行なった。これまでの長い歴史の中で、エストニア全土をはじめ旧ソ連、ドイツやフランスをはじめヨーロッパ各国、イスラエル、カナダ、アメリカ、中国でのツアーを行なっている。2016年はサンクトペテルブルク、アルメニア、ジョージアに招かれて好評を博した。2015年エストニア国立文化勲章を受賞。



ミック・ウレオヤ 指揮者 Mikko Uleoja, Conductor

1997年にエストニアの音楽アカデミーで学び、2004年に音楽学位を取得。この間、ワールド・ユース合唱団、エストニア男声合唱団、エストニア・フィルハーモニー室内合唱団、グレゴリオ聖歌合唱団Vox Clamantisの合唱団員として活動した。

聖ミカエル少年合唱団やマットン室内合唱団の指揮者として活躍し、カーリ教会合唱団の首席指揮者やタルトゥのヴィルヤンディ文化アカデミーにて合唱を指導。1998年から2011年にはエストニア・フィルハーモニー室内合唱団のコーラスマスターを務めた。2011-12シーズンからはエストニア国立男声合唱団の首席指揮者として芸術監督を務める。これまでに手がけたCDは5作品がリリースされており、特に2007年リリースのエストニアの現代作曲家マルト・サール作品集がエストニア文化基金の年間大賞を受賞している。

高市紀子 フルート

Noriko Takaichi, Flutist



会場：佐久市コスモホール

佐久市下小田切124-1
0267-82-3962 駐車場 300台

- ※駐車台数には限りがあります。乗り合せ等にご協力ください。
- ※北陸新幹線佐久平駅からタクシーで25分(約4,700円)
- ※上信越自動車道佐久ICから車で25分(16km)
- ※中部横断道路佐久白田ICから車で3分(1km)
- ※JR小海線白田駅から徒歩20分(1.7km)

アクセス



エストニア国立男声合唱団 “エルネサクスの情熱”

エストニア国立男声合唱団の創立は1944年11月のことであった。「人間の文化への欲求はいつも高い」という信念を持ち続け、エストニア合唱のリーダー的存在としての男声合唱団と共に活動した。多くの合唱指導者を育て、合唱団の設立を助け、大衆に合唱作品を与え続けたのがグスタフ・エルネサクスであった。

「我が祖国 我が愛」エストニア第2の国歌と言われる歌をエルネサクスが作曲したのは、この国の創立と同じ1944年、第2次世界大戦が終わりに近づいていたことを思うと、エルネサクスの国民への思いがいかなるものであったか、希望を失うことなく歌をもって人々に立ち向ったか、私には思いも奇らない程のものであったことであろう。

1869年に始まったエストニア歌の祭典においてもこの団体は歌を愛する国民とともにあり、決して人々と乖離することがなく、さらにプロの男声合唱としてのその可能性に向かうことを忘れない。そこには数々の日本の作品も含まれる。1980年頃に話始められた来日公演が実現する。ご尽力頂いた多くの方々に感謝しつつ、意義ある旅を期待する。

松原千振(東京混声合唱団正指揮者)(神戸市混声合唱団音楽監督)